平成２９年度　全国学力・学習状況調査について

1. 全国学力・学習状況調査の結果分析（全体の傾向・成果と課題等）

　＊教科：数学

|  |
| --- |
| 千葉県全体の平均に比べて、数学A（主として知識に関する問題）の理解がやや高く、数学B（主として活用に関する問題）の理解がやや低い傾向にある。特に千葉県の平均を大きく下回る問題を見ると次のような結果がわかる。  【数学A】  文字式に関する問題で、読み取り・表現をする力が低い。角の二等分線の根拠を理解してない。錯角の位置関係を理解していない。平行四辺形になる条件が正しく選べない。文章を読んで、一次関数の式で表す問題の理解が低い。反比例の表から比例定数を求められない。一次関数の式を利用し、値を求める問題ができない。確率の「同様に確からしい」という意味を正しく理解していない。確率を求める問題で、確率に「１」より大きい数を求めている。  【数学B】  図形の問題で、文章を読み状況を把握できていない。関数の問題で、正しく変域を求めることができない。三角形の合同を利用して、角の合同を証明することができない。文章から条件を読み取り、角度を求める問題ができない。  【背景】  普段の授業では、基礎的な計算の反復練習を大切にし、１コマの授業で少しでも多くの問題をこなせるようにしている。文章題など、活用問題などは単元の最後に少し触れる程度である。  【考察】  　以上のことから、本校生徒は、反復練習により基本的な計算力が身についている。見慣れた表現で問題を出されると、文章題でも表現することができるが、見慣れない表現の文章題が出題されると、対応できなくなる傾向にある。また、各単元ででてくる重要語句について、おおざっぱな意味は覚えているが、定義等深い意味を問われると、わからなくなってしまう傾向にある。 |

1. 今後の対策（後期の学習指導や家庭学習、サポートティーチャー等の活用等）

|  |
| --- |
| 授業では、引き続き基礎計算力を伸ばすため、問題数をこなすようにしていく。その中で、同様の計算を用いる計算でも、出題の方法を少しずつ変えるなど、色々な表現の出題にも慣れさせていく。また、基礎計算力が身についた生徒については、積極的に活用問題を解かせ、難問や文章題にも慣れさせていく。基礎計算力が身についていない生徒は、授業に学び会いの時間を組み込んだり、サポートティーチャーの個別指導を取り組んだりと、計算の反復練習を徹底し、基礎計算力を高める。また、土曜日授業を活かし、各単元で特に間違え易いパターンの問題をピックアップし、全員が確実に解けることを目指していく。  　また、家庭学習等数学の勉強で困っている生徒には、定期試験・実力テストでの分析を活かして、個別指導を行う。その時の観点は、自分の間違え易いパターンに気付かせ、試験でミスを減らせるよう意識して取り組めるようにすることである。苦手パターンのみをまとめた専用のノートをつくるなど、試験前の確認に利用できるものをつくらせていく。 |